

Q 県北流域下水道施設の汚泥流出可能性への対策は

A 今後も対策や緊急時の体制を講じるよう求める



村上正勝議員

問 県北流域下水道施設敷地内に堆積している下水汚泥は現在どの程度の搬出量か。

搬出が始まり、26日までにドラム缶1115本分、70・6トンほどが搬出され、乾燥前の重量で約446トンの汚泥が処理された。

課長 上下水道 汚泥の減容化が

始まるまで約2万5080トン保管されていた。6月1日から場外

問 県北流域下水道施設は低地に造られており、大雨の

ときの浸水で汚泥が流

れ出す恐れがある。その対策は。

課長 上下水道 県からは施設内の雨水排水対策として毎分

80トンの排水能力のあるポンプを2台設置しているとの報告がある。

町としても今後も引き続き万全な対策並びに緊急時の体制を講じるよう求めていく。

町の人口減少への対策は

問 町の人口の減少が進んでいる

が、町として具体的な対策はあるのか。

町長

現在、町の人口は9400人程度と毎年減少している。高齢化率が35%を超え、14歳以下の年少人口も減少し続けており、町としても非常に重要な課題と認識している。

魅力あるまちづくりのための元気活力事業の実施や、少子化対策としての放課後児童クラブや預かり保育の

時間延長、婚活事業に対する支援などを行ってきた。今後、国見型のより効果的な人口減少、少子高齢化に対する具体策を検討したい。

問 空き家対策を兼ねて都市部からの人口の流入を図る

など、国見に住みたいと思われるまちづくりへの具体的な施策があるか伺う。

町長

空き家対策については昨年の実態調査でベースができた。検討委員会が立ち上がり7月から有識者会議も開かれていくので、具体的な議論は

これから行っていく。

いかに産業振興や地域づくりに活かすかが町に課せられた重要な課題である。地域振興の観点からしっかりと対応していきたい。

観光促進への取り組みは

問 国見サービスエリア下の阿津賀志山防塁を眺める施設の整備を行う予定はあるか。

阿津賀志山防塁の保存活用については、現在行っている発掘調査を踏まえた上で、周辺環境を含めて一体的な整備を推進することになっている。質問の国道4号線北側の地区でも、今後ガイダンス広場などの整備をしたいと考えている。



県北浄化センターで汚泥乾燥施設の説明を受ける議員

Q 生活環境の変化に対応できる 保育を

A 待機児童ゼロを維持し保育の充実を図る

今後の子育て支援をどのように展開していくのか。

教育長

平成27年
3月に「国見

町子ども・子育て支援事業計画」を策定し、

問

保育所の利用者で育児休業取得中の方の利用は引き続き可能なのか。

保育所の利用者で育児休業取得中の方の利用は引き続き利用できる。

問

幼児教育課長

育児休業中であっても、保護者の健康状態や子どもの発育上環境の変化が望ましくない

子どもは親と一緒に生活するのが一番幸せであるとの考えもあるが、生活環境も変化しその考え方も変えるべきだと思う。

その点についての考えを伺う。

教育長

子どもは親と生活することが大切であり保護者が子育ての第一義的責任を有することに変わりはないが、状況の変化があることも確か。町では待機児童ゼロを維持するなど保育の充実を図っている。

問

現状の保育で満足度をアップさせることが大切である。

現状の保育で満足度をアップさせることが大切である。



元気な歌のプレゼント
(保育所・デイサービスセンター交流)

生活の実態や意向を把握し、適切なサービス提供につなげて支援に努めていきたい。

法改正で介護待機者が増えるのでは

問

介護保険法の改正により、施設に入れない介護待機者が増えるのではないのか。

保健福祉課長

介護保険で、特別養護老人ホームには原則として要介護3以上の方のみが入所となった。在宅で介護を受ける重度の入所待機者が多数いるため、優先的に入所できるような見直しがあったため、待機者が増えることにはならないと考えている。

問

民間施設など積極的に誘致して早めに状況を打開すべきと考えるが、今後の展開は。

町長

民間施設の導入では、地域密着型の認知症対応グループホームと特別養護老人ホームを1か所ずつ整備し、平成29年度に開業する計画がある。事業を行う民間の社会福祉法人などをこの夏までに公募したい。また、介護予防目的の「元気まつり」や小坂くらし館での健康づくりを実施している。既存の事業を効果的に実施し、地域包括ケアへの積極的な対応、道の駅を核とした交流の場でのコミュニティビジネスの創設など、高齢者がいきいきと暮らせるやさしい町づくりを進めていきたい。



渡辺勝弘議員